

今後の検討課題等に関する委員からの意見のまとめ（案）

以下は、先日皆さまからお寄せいただいた“現状で考えられている検討項目とその内容”についての意見を整理したものです。

<基本的な考え方>

a．目標、哲学、理念、夢

- ・河川とは何か^{*}
 - 水系全体とおよぼす範囲を含む、水系全体、河川の本支川
- ・上記のうち、河川生態系（河川環境の水理、水質、生物など物質循環系としての生態系）の維持機構と河川開発の適正規模^{*}
- ・国民（市民）が河川に何を望んでいるのかの集約と、それに答えるための行政の基本的あり方^{*}
- ・上記の基本的視点に沿った琵琶湖とその集水域の動態把握、ならびに下流淀川水系へ及ぼす影響、と水系開発のあり方
- ・環境経済学の活用に関する議論
 - 国内における環境経済学の発展状況の把握と、開発事業や上下流負担に関する環境経済学の可能性に関する議論

注）*については、流域委員会で課題として指摘された

b．河川を考える際の前提

- ・淀川水系の水需要をどこまで減らせるか
 - 少ないコストでいかに水需要を低下させるかに関する議論。適正な流域の人口規模などについても議論

c．河川整備の基本的考え方

- ・治水・親水・利水を十分果たせる将来計画を立てる方策

d．教育、意識向上

- ・子どもにとっての琵琶湖と河川
 - 「住民」の中でも、政策決定の場に出てきにくいのが子どもであるが、湖や川は彼らにとって情操をはぐくみ自然を知る場として重要である。子どもにとっての現在の河川のありようと、今後のあり方の議論
- ・学校とのかかわり方に関する議論
 - 学校のカリキュラムの中に、河川や琵琶湖をあらゆる角度（水質だけではなく）から学習する機会を設けることの議論
- ・市民（学校教育での児童、生徒を含む）の主体的環境観の育成と組織としての客体的環境観の規範の構築

< 各論 >

a . 治水、防災

-

b . 利用

・現在の琵琶湖漁業と琵琶湖総合開発

琵琶湖は約 50 年前には 1 万 t 強の漁獲をあげ（40 種類以上の漁法・漁業種類があった）、農水省では海面漁業に準じた扱いをして来た。今日の漁業壊滅に至った原因に総合開発に伴う土木・河川整備に関わった原因を詰めておく必要がある。琵琶湖の将来にとっても、河川・湖沼水系整備のあり方を考える上でも「生きたテキスト」になる筈である。

・河川と湖面の漁業への取組み(県行政と漁業者の努力)

c . 環境

・琵琶湖に流入する河川に作られたダムや河川改修が琵琶湖に及ぼす影響

ダムや河川改修がその河川の生物や環境に与える影響については、いろいろ議論があるが、河川が流入する琵琶湖への影響については、十分な整理がされていないのが現状である。琵琶湖部会の検討課題のひとつである丹生ダムの問題もあるので、この問題について整理しておく必要があると思う。琵琶湖の環境サイドから考えられる問題として、以下のようなものがある。

（ 1 ）ダムにより、（冬に酸素を含んだ）雪解け水が琵琶湖に流入しなくなる問題

（ 2 ）河川からの土砂供給の減少

（ 3 ）河川からの濁水の流入

・生態学的水需要に関する議論

河川に平常時に流れる水の量が少ないことが前から問題になっている。そこで、生態系を維持するための需要を「生態学的水需要」として確保することが考えられるが、その是非や量の決め方に関する議論

< 具体的な対策についての総合的な議論 >

・丹生川ダムの建設を含めた高時川の今後に関する議論

上記の議論とも関連するが、現在、丹生ダムの必要性には疑問符が多く投げかけられている。自然度の高さでは県内でも有数の高時川にダムを建設することの是非と、代替的な施策の検討

・琵琶湖の水位操作のあり方について

これについては、既にいくつか論点がでているので、論点を整理した上で、一度議論をしてみてはどうか

<住民意見の反映方法>

- ・外部からの一時滞在者の扱いに関する議論

現在、河川や琵琶湖を利用する人の中には、地域あるいは流域外から来る人が多い。彼らは「地域住民」ではないが、重要な利害関係者である。住民参加の中で、彼らをどう捉え、どういった参加の経路や形態が想定できるか、といった議論

- ・本委員会における住民意見の聴取方法